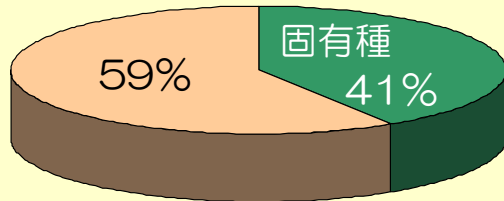


世界遺産センター（仮称） の基本的な考え方

はじめに ～小笠原諸島の在来生物の危機的状況～

小笠原の世界自然遺産としての価値

◆固有種率が極めて高い。



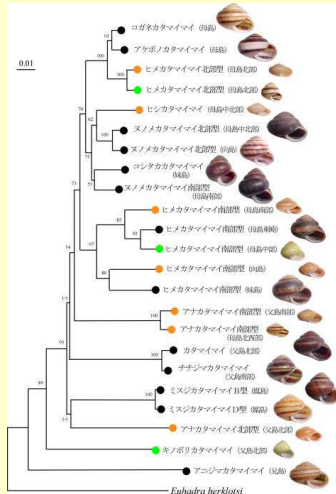
兄島の植物の固有種率



◆植物では活発な進行中の種分化の重要な中心地となっている。



◆生物が様々な場所に適応して進化した証拠がよく残っている。

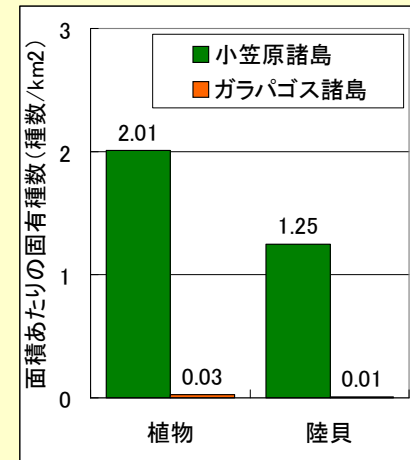


カタマイマイ属の系統関係

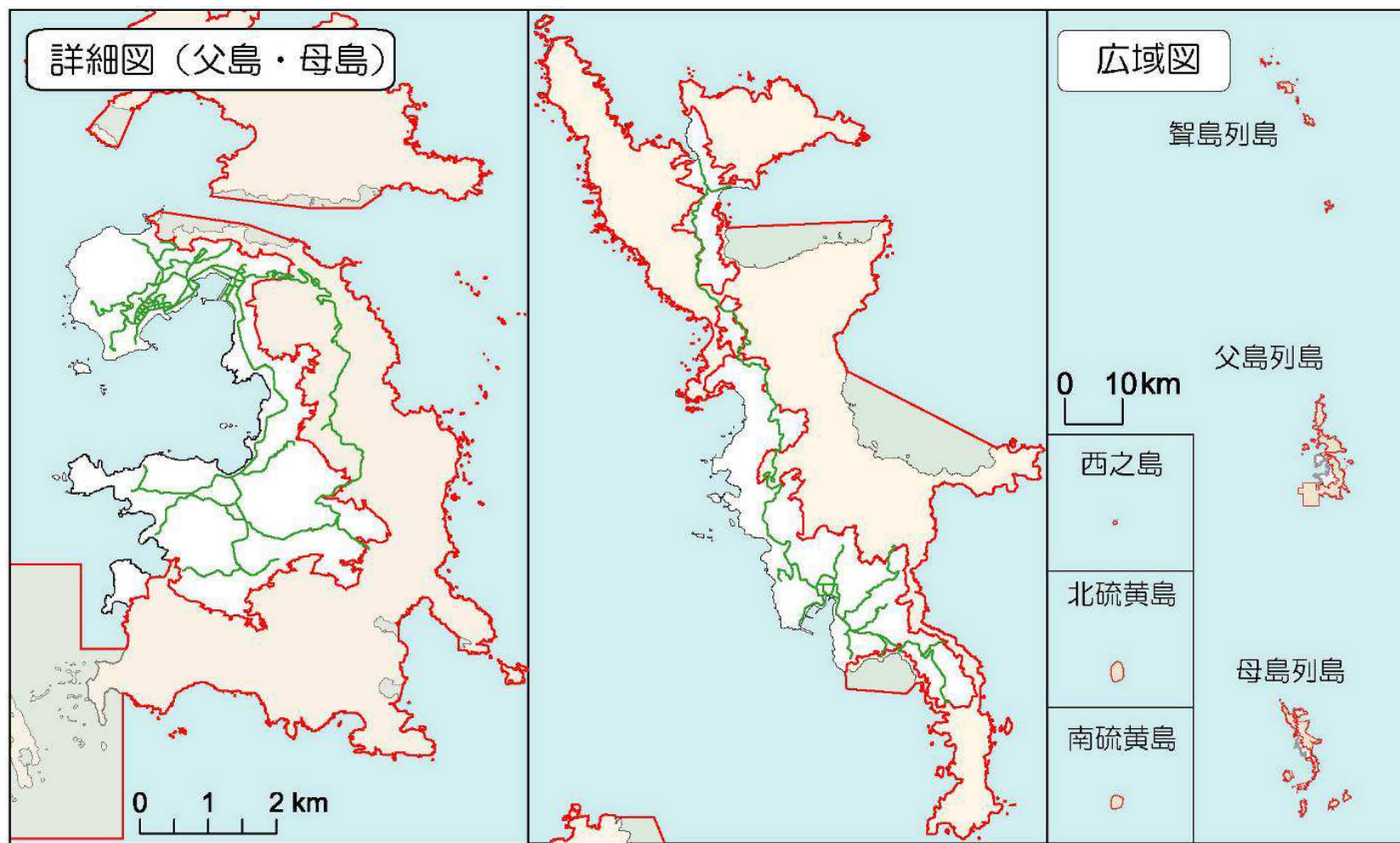
◆面積が小さい割に、陸貝と植物の固有種の割合が並外れて高い。



陸産貝類の固有種率



はじめに ～小笠原諸島の在来生物の危機的状況～



小笠原の世界自然遺産地域は、
多数の島嶼にまたがっている。

はじめに ～小笠原諸島の在来生物の危機的状況～

平成25年度に直面した
2つの外来生物による大きな危機

兄島に侵入した
グリーンアノールへの
対応

兄島の固有昆虫類と
昆虫たちが育む
生態系の**重大な危機**

アノールの根絶の例は、世界にもない。根絶に向けた取組を急ぐ。

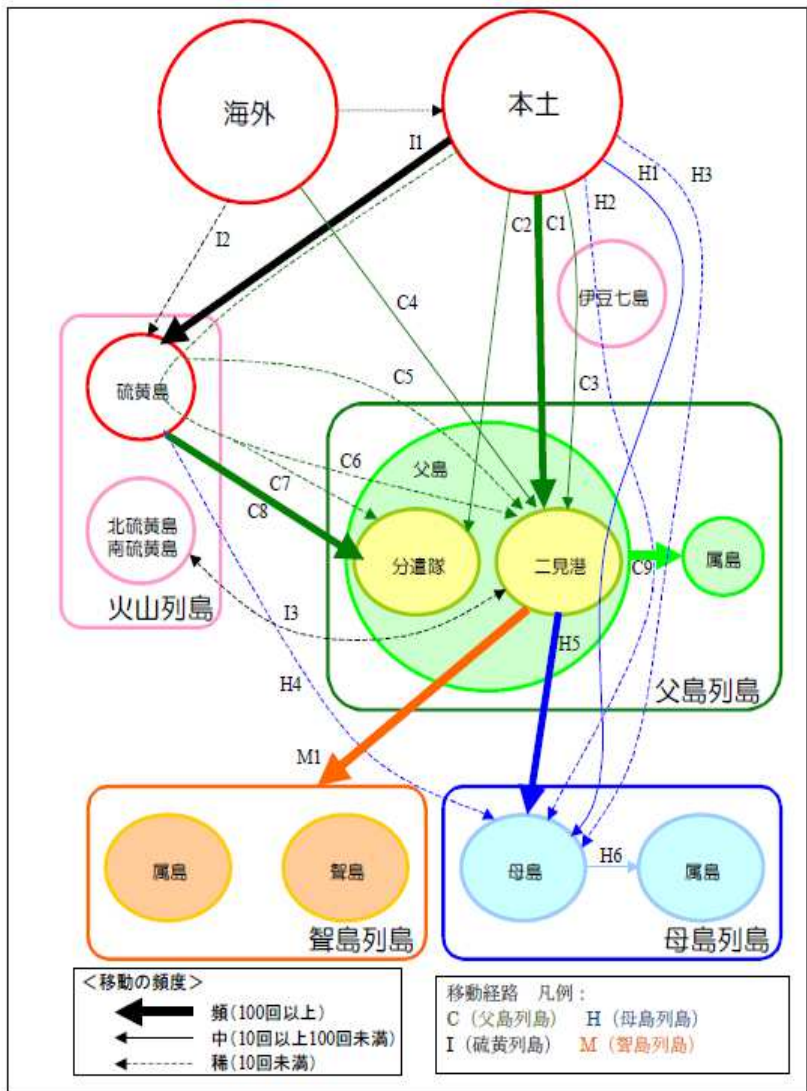
父島鳥山に拡散・侵入した
ニューギニアヤリガタ
リクウズムシへの
対応

父島の残りわずかな
固有カタツムリの
絶滅に瀕した危機

一度侵入したウズムシを排除する方法がない。侵入する前の囲い込み、生き残ったカタツムリの回収を急ぐ。

- ◆ これ以上、おそろしい外来生物を拡散させてはならない ◆
- ◆ 絶滅の危機に瀕した固有種を、緊急確保しなければならない ◆

はじめに ～小笠原諸島における外来生物の拡散防止の問題～



小笠原諸島における外来種の拡散の問題は、

- ① 外来種の侵略性
(どのくらいおそろしいか)
- ② 拡散経路の問題
(どこからきて、どこに行くか)
- ③ 意図的か非意図的か
(なにしにくるか)

の3つの観点で考える。

新たな外来種拡散防止WGでの議論		
	本土から諸島内	有人島から属島
意図的	ペットの適正飼養 → ペットの避妊治療等	-
非意図的	産業資材、生活物資 全般のチェック体制 → 中長期的課題	調査、事業等に伴う 外来種の拡散防止 → 冷凍、燻蒸等による 資材の処置

島民の生活・産業に関わるため、慎重な議論が必要とされた

短期的に対処すべき課題とされた

～世界遺産センター（仮称）の機能①～

■ 基本理念

小笠原世界遺産センター（仮称）は、「世界自然遺産地域 小笠原諸島管理計画」に基づいて、多様な関係機関の連携・協力・役割分担の下で、科学的アプローチによる世界自然遺産の保全管理の取り組みをすすめるための施設とする。固有種・希少種の緊急的な保全場所の確保、属島や同一島内の重要地域への外来種の拡散防止、既に侵入した外来種の駆除、モニタリングと情報活用、及び、関係者の合意形成を推進する。

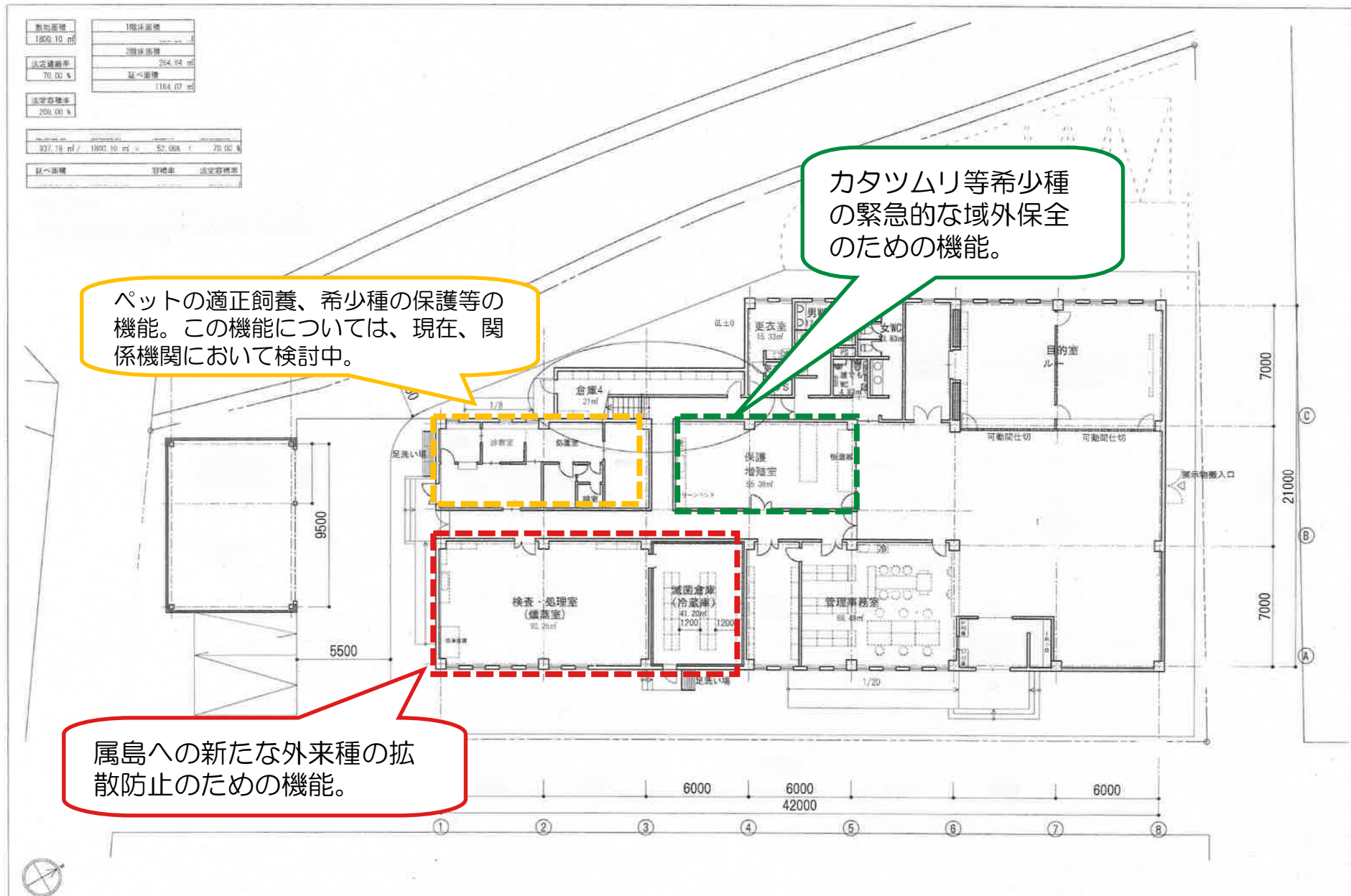
<世界遺産センターが備える4つの機能>

- ① 父島における外来種検査・処置機能
- ② 父島における保全事業にかかる機能
- ③ 情報集約・発信機能
- ④ 管理運営機能

林野庁外来生物対策
母島施設との連携

一般にも開かれた施設ではあるが、島内の観光促進を主な対象とする施設ではなく、属島を中心とする自然再生事業の取組を行うための施設。

～世界遺産センター（仮称）の機能②～



(*) H26.2月現在の1F図面（部屋割り等については、変更がある予定）

～スケジュール～

【年内目処】

関係者へのヒアリング及び課題の整理

【1月18日】

住民の説明会を開催。

【2月下旬】

地域連絡会議での報告。

【年度明け】

実施設計の決定（予定）。